

芦屋市における過去5年間の交通事故発生状況(平成26年～平成30年)  
と平成30年の交通事故発生状況検証

※市内交通事故件数 319 件のうち、市内在住者 118 人(第1当事者) 37%

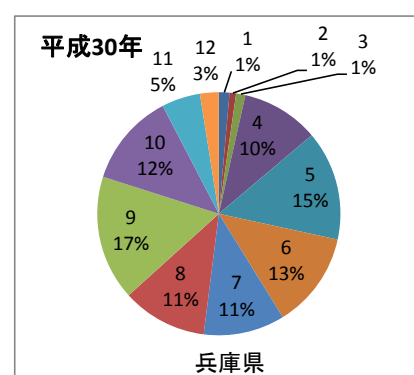
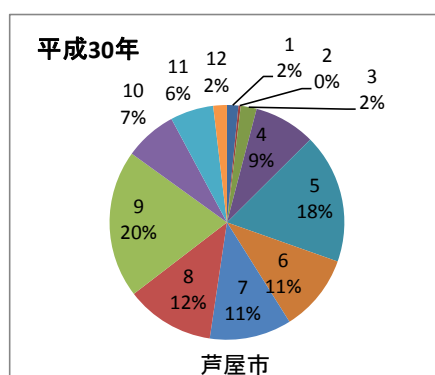
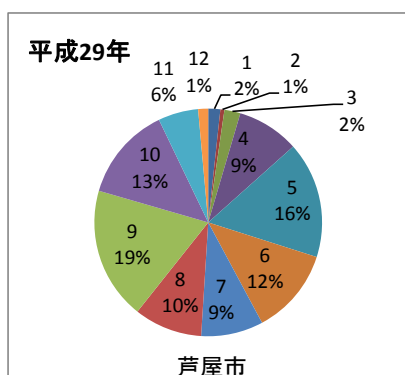
(第1当事者) 交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が最も重いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の軽いものをいう。  
(第2当事者) 交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が軽いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の重いものをいう。

時間別事故発生状況(件)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
1 0時～2時	11	4	9	6	5
2 2時～4時	4	1	4	2	1
3 4時～6時	7	7	1	8	7
4 6時～8時	30	30	26	31	27
5 8時～10時	40	55	53	58	57
6 10時～12時	39	27	38	43	34
7 12時～14時	43	31	39	31	36
8 14時～16時	42	42	35	34	39
9 16時～18時	64	56	54	66	65
10 18時～20時	44	35	34	47	23
11 20時～22時	21	18	16	20	19
12 22時～24時	11	13	13	5	6
計	356	319	322	351	319

兵庫県

平成30年
348
214
304
2544
3597
3153
2666
2787
4101
3069
1267
617
24667



(グラフ内の%表示については小数点以下四捨五入)

芦屋市内交通事故件数のうち、第1当事者が市内在住者である割合は約4割である。時間別事故発生状況として、通勤・通学の時間帯である8時～10時、退勤・下校の時間帯である16時～18時が特に多い。兵庫県全体も同じ状況である。

# 高齢者の安全確保

高齢者関係事故（65歳以上）

兵庫県

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
市内交通事故件数（件）	356	319	322	351	319
高齢者関係事故件数（件/年）	103	111	116	128	124
事故全体に占める 高齢者関係事故件数の割合（%）	28.9%	34.8%	36.0%	36.5%	38.9%
高齢者関係事故に占める市内在住者数【第1当事者】（人）				75	53
高齢者第1当事者事故件数（件/年）	65	68	67	83	77
高齢者関係事故に占める 高齢者第1当事者事故件数割合（%）	63.1%	61.3%	57.8%	64.8%	62.1%
高齢者関係事故に占める高齢運転者数【第1当事者】（人）				74	71
高齢者関係事故に占める高齢運転者数【第1当事者】のうち市内在住者数（人） 割合（%）				45 60.8%	28 39.4%
死者（人）	1	0	1	0	0
傷者（人）	54	63	71	76	81
傷者（第1当事者）（人）	11	8	3	12	*
傷者（第2当事者）（人）	37	47	57	51	*
高齢者人口（人）	25,475	26,036	26,584	26,934	27,390
高齢者人口1千人当たり の高齢者関係事故件数（件）	4.0	4.3	4.4	4.8	4.5
高齢者人口1千人当たり の高齢者死傷者数（人）	2.1	2.4	2.7	2.8	3.0

平成30年
24667
8386
34.0%
5322
63.5%
96
5336
*
*
1577000
5.3
3.4

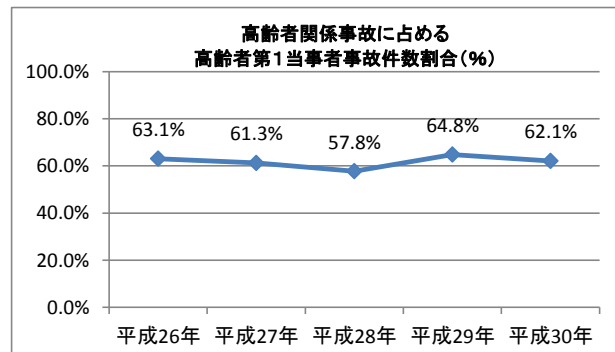
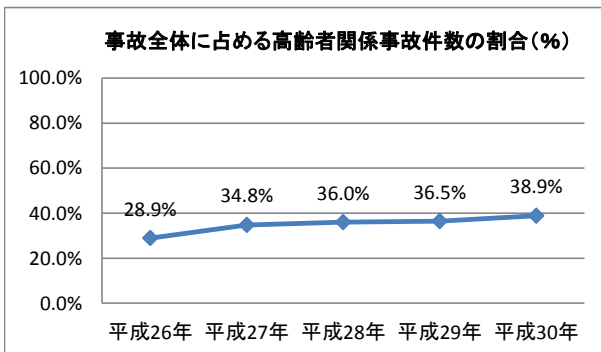
（\*平成30年交通年鑑データが公表されていないため空欄）

○高齢者関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が高齢者の交通事故

○高齢者人口【芦屋市】各年度9月30日現在の男女65歳以上人口（芦屋市住基統計行政区別・年齢別人口調べによる）  
【兵庫県】平成30年10月1日現在の男女65歳以上人口（都道府県、年齢(5歳階級)、男女別人口推計による）

高齢者に対する交通安全教育実施回数・参加者数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
実施回数（回）	1	1	1	1	1
参加者（人）	33	22	23	80	79



平成30年は兵庫県全体と比べて高齢者人口1千人当たり  
の高齢者関係事故件数は少ないが、事故全体に占める  
高齢者関係事故件数割合は兵庫県全体と比べて高く、  
約4割である。高齢者関係事故に占める高齢者第1  
当事者事故件数割合は約6割となっており、第1  
当事者の高齢運転者のうち市内在住者は約4割  
である。また、交通安全教育は平成26年以降は年  
1回の開催となっている。高齢者関係事故件数  
が増加していることから、今後、高齢者への  
交通安全教育を充実させる必要があると思われる。

# 子どもの安全確保

子ども関係事故（15歳以下）

兵庫県

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成30年
市内交通事故件数（件）	356	319	322	351	319	24667
子ども関係事故件数（件/年）	23	15	21	21	14	1111
事故全体に占める子ども関係事故件数の割合（%）	6.5%	4.7%	6.5%	6.0%	4.4%	4.5%
子ども関係事故に占める市内在住者数【第1当事者】（人）					15	6
子ども第1当事者事故件数（件/年）	6	4	5	8	1	376
子ども関係事故に占める子ども第1当事者事故件数割合（%）	26.1%	26.7%	23.8%	38.1%	7.1%	33.8%
死者（人）	0	0	0	0	0	6
傷者（人）	30	20	30	25	16	1863
傷者（第1当事者）（人）	6	3	4	7	*	*
傷者（第2当事者）（人）	17	9	17	13	*	*
子ども人口（人）	13,829	13,660	12,562	13,287	13109	683000
子ども人口1千人当たり子ども関係事故件数(件)	1.7	1.1	1.7	1.6	1.1	1.6
子ども人口1千人当たり子ども死傷者数(人)	2.2	1.5	2.4	1.9	1.2	2.7

(\*平成30年交通年鑑データが公表されていないため空欄)

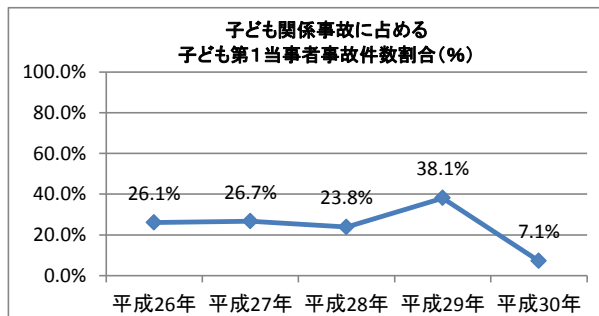
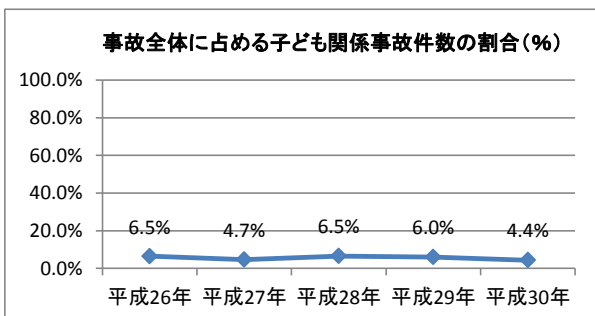
○子ども関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が子どもの交通事故

○子ども人口【芦屋市】各年度9月30日現在の男女0歳～15歳人口（芦屋市住基統計行政区別・年齢別人口調べによる）

【兵庫県】平成30年10月1日現在の男女0歳～14歳人口（都道府県、年齢(5歳階級)、男女別人口推計による）

## 子どもを対象とした交通安全教室の推進

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	参加者(人)
幼稚園（回）	20	18	15	16	16	(児童) 2605 (保護者) 298
保育所・園（回）	19	23	27	25	27	
小学校（回）	16	14	16	16	18	1582
中学校（回）	4	5	3	3	3	1082
特別支援学校（回）	2	2	1	2	2	280
高等学校（回）	0	0	0	0	1	370
計	61	62	62	62	67	6217



子ども関係事故件数が少ないため一時的な状況とも考えられるが、平成30年は、子供第1当事者事故件数割合が減少した。幼稚園、保育所・園、小学校対象の交通安全教室の継続的な実施により子どもへの啓発の成果があらわれているとかがえる。自分が加害者になる可能性がある世代（中学校以上）対象の交通安全教室の継続が必要と思われる。

## 歩行者の安全確保

### 歩行者関係事故

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
市内交通事故件数（件）	356	319	322	351	319
歩行者関係事故件数（件/年）	51	40	62	54	52
事故全体に占める歩行者関係事故の割合（％）	14.3%	12.5%	19.3%	15.4%	16.3%
死者（人）	3	0	1	0	0
傷者（人）	50	41	61	55	56
傷者（第1当事者）（人）	3	4	0	1	*
傷者（第2当事者）（人）	46	35	60	53	*

### 兵庫県

平成30年
24667
2821
11.4%
63
2854
*
*

（\*平成30年交通年鑑データが公表されていないため空欄）

○歩行者関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が歩行者の交通事故

### 自転車と歩行者の交通事故件数

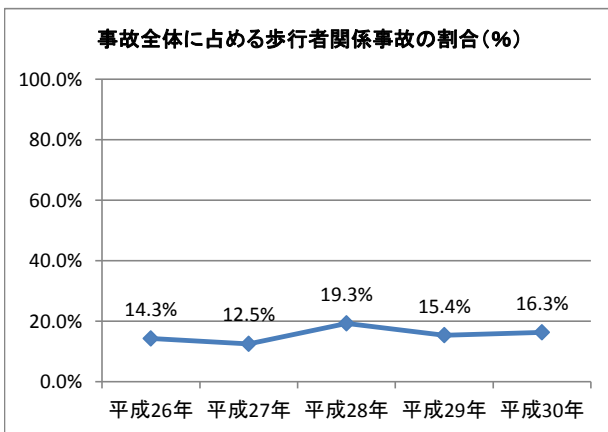
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
事故件数（件/年）	1	5	14	7	7
自転車（第1当事者）対 歩行者（第2当事者）					7
歩行者（第1当事者）対 自転車（第2当事者）					0

### 兵庫県

平成30年
169
168
1

### ゾーン30実施エリアにおける事故件数（速度違反が要因の事故）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
事故件数（件/年）	0	0	0	0	0



事故全体に占める歩行者関係事故件数割合は横ばいで2割近くあり、兵庫県全体と比べて事故割合は高い。平成30年は自転車対歩行者の交通事故件数すべてにおいて自転車が第1当事者となっている。

# 自転車の安全確保

## 自転車関係事故

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
市内交通事故件数（件）	356	319	322	351	319
自転車関係事故件数（件/年）	87	87	103	114	101
事故全体に占める自転車関係事故の割合（％）	24.4%	27.3%	32.0%	32.5%	31.7%
自転車関係事故に占める市内在住者数【第1当事者】（人）				67	54
人对自転車（件）	1	5	14	7	7
自転車対車両（件）	83	80	87	101	92
自転車単独（件）	3	2	2	6	2
自転車第1当事者事故件数（件/年）	27	21	42	41	34
自転車関係事故に占める自転車第1当事者事故件数割合（％）	31.0%	24.1%	40.8%	36.0%	33.7%
（乗用中）死者（人）	0	0	0	0	0
（乗用中）傷者（人）	89	87	89	113	*
（乗用中）計（人）	89	87	89	113	*

（\*平成30年交通年鑑データが公表されていないため空欄）

## 兵庫県

平成30年
24667
5881
23.8%
169
5504
208
1921
32.7%

○自転車関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が自転車の交通事故

## 第1当事者事故件数（違反別で主なもの）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
通行区分（件）	2	2	0	2	1
一時不停止（件）	5	2	0	4	6
信号無視（件）	4	3	4	3	5

## 兵庫県

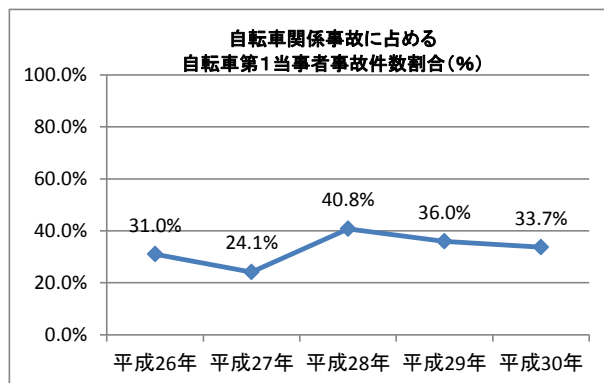
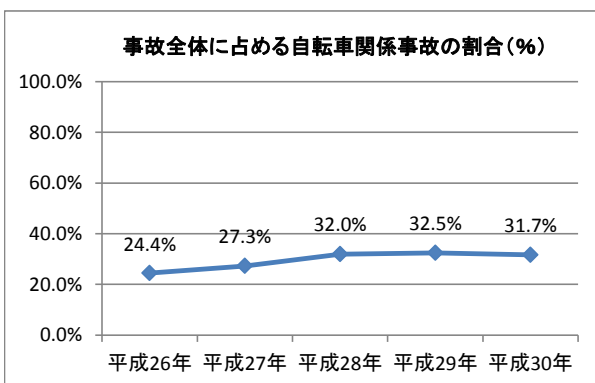
平成30年
94
1127
247

## 自転車教室参加人数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
参加者（人）	21	39	21	14	53

## 自転車交通安全教室実施状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	参加者（人）
小学校（回）	8	8	8	8	8	740
中学校（回）	4	5	3	3	3	1082
高等学校（回）	0	0	0	0	1	370
計	12	13	11	11	12	2192



事故全体に占める自転車関係事故の割合は約3割であり、兵庫県全体と比べて高い。そのうち第1当事者の市内在住者割合は約5割である。事故の内訳として、自転車対車両の事故件数割合が9割を占めている。平成30年は自転車第1当事者事故件数割合は減少したものの約3割を占めている。今後も継続して自転車利用者への啓発・教育の充実が必要と思われる。

## 生活道路における安全確保

### 生活道路における交通事故件数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
市内交通事故件数（件）	356	319	322	351	319
生活道路における事故件数（件）	213	191	198	216	201
事故全体に占める生活道路事故件数の割合（％）	59.8%	59.9%	61.5%	61.5%	63.0%

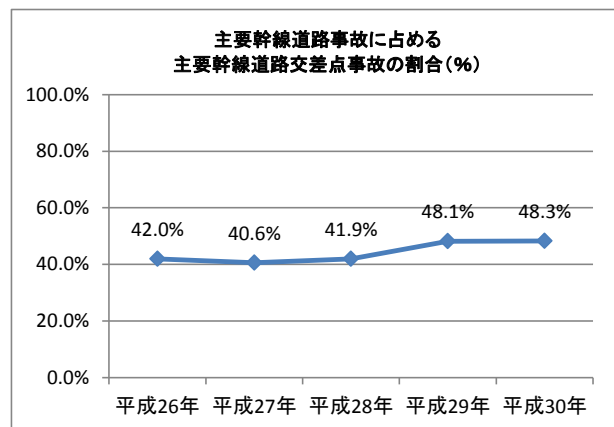
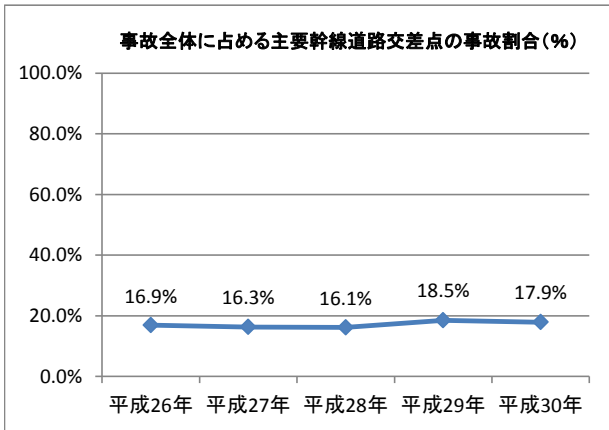
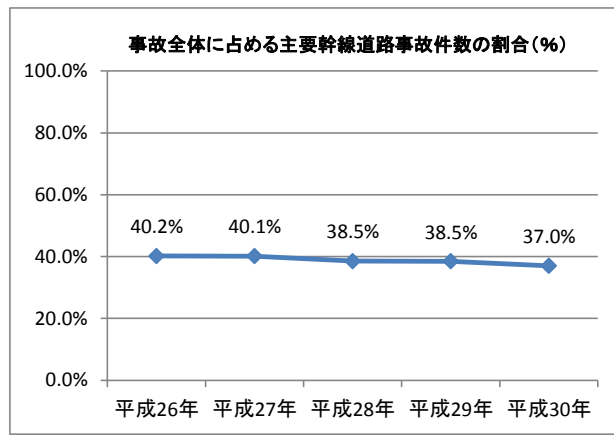
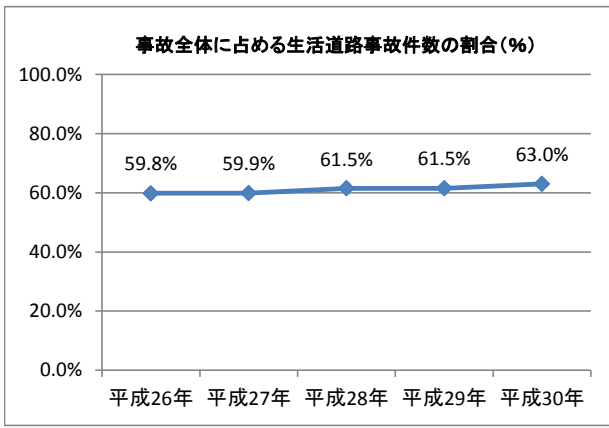
## 幹線道路における安全確保

### 主要幹線道路における交通事故件数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
山手幹線（件）	30	30	21	22	24
車両相互（追突）（件）					7
自転車対車両（件）					6
第1当事者芦屋市在住（件）					7
山手幹線事故に占める第1当事者の市内在住割合（％）					29.2%
国道2号線（件）	59	57	44	52	39
車両相互（追突）（件）					13
自転車対車両（件）					12
第1当事者芦屋市在住（件）					7
国道2号線事故に占める第1当事者の市内在住割合（％）					17.9%
国道43号線（件）	54	41	59	61	55
車両相互（追突）（件）					23
自転車対車両（件）					13
第1当事者芦屋市在住（件）					5
国道43号線事故に占める第1当事者の市内在住割合（％）					9.1%
合計（件）	143	128	124	135	118
事故全体に占める主要幹線道路事故件数の割合（％）	40.2%	40.1%	38.5%	38.5%	37.0%

### 主要幹線道路交差点事故件数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
山手幹線（件）	11	4	8	10	13
国道2号線（件）	27	34	18	31	17
国道43号線（件）	22	14	26	24	27
合計	60	52	52	65	57
事故全体に占める主要幹線道路交差点事故の割合（％）	16.9%	16.3%	16.1%	18.5%	17.9%
主要幹線道路事故に占める主要幹線道路交差点事故の割合（％）	42.0%	40.6%	41.9%	48.1%	48.3%



事故全体に占める生活道路事故件数の割合は増加しており6割を超えている。主要幹線道路事故件数のうち、第1当事者の市内在住者割合は山手幹線で約3割、国道2号線で約2割、国道43号線で約1割程度で少ない。また、事故全体に占める主要幹線道路事故件数の割合は横ばいではあるが約4割ある。主要幹線道路事故に占める主要幹線道路交差点事故の割合は約5割あり、今後取締りの強化などの対策が望まれる。

# 重視する視点に特化しない包括的な安全確保

## 交通事故に対する救急出場件数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
救急出場（件）	324	277	280	264	279

## 応急手当講習等受講人員

対象\年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
普通救命講習Ⅰ （一般市民、学校・園）（人）	475	391	403	442	467
普通救命講習Ⅱ（トライやるウィーク生徒、保育園・幼稚園職員）（人）	58	45	82	65	38
上級救命講習（一般市民）（人）	6	11	12	19	16
応急手当講習（一般市民、学校・園）（人）	1,804	1,337	1,625	1,396	1,464
応急手当普及員講習（消防団員）（人）	—	9	—	5	—
応急手当普及員再講習（消防団員）（人）	—	35	3	—	—
合計（人）	2,343	1,828	2,126	1,927	1,985

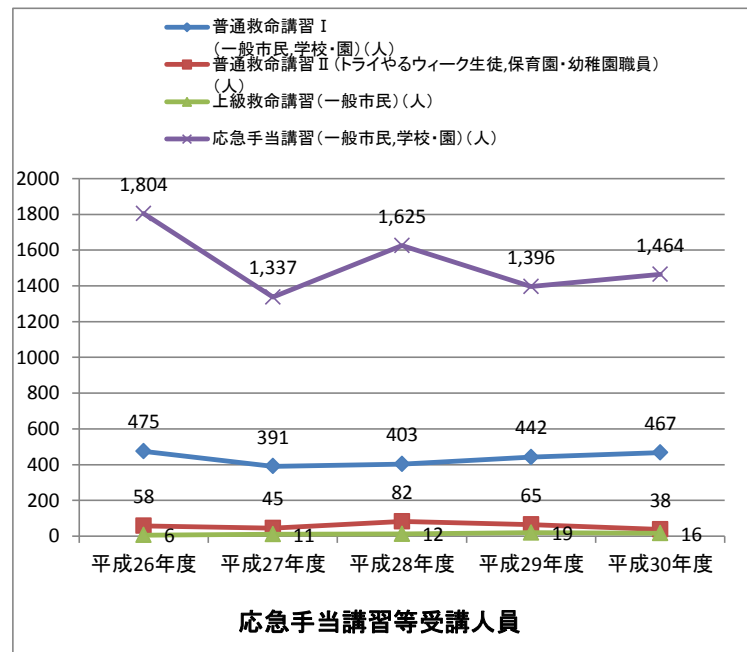
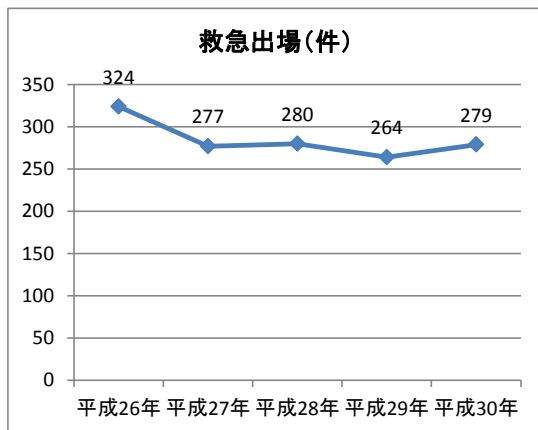
## 踏切道における交通事故死傷者

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
事故件数（件）	0	1	0	0	0
死者（人）	0	0	0	0	0
傷者（人）	0	1	0	0	0

兵庫県

平成30年

4



交通事故に対する救急出動件数は横ばいである。応急手当講習等受講人員のうち、一般市民、学校・園対象の応急手当講習については、平成30年度は1500人近くの方が受講しており、救命救急への関心の高さがうかがえる。